

第 49 回国臨協関信支部学会「学会賞」選考報告

NHO 信州上田医療センター 芦川 晋

学会賞の選考は、昨年と同様に国臨協関信支部表彰規定に基づいて、1次選考は學術委員全員の抄録の評価で候補者の選出を行い、2次選考は8月25日Web会議システム（Zoomミーティング）で学会賞選考委員の林元久學術委員会委員長、時田和也學術委員会病理部門長、竹内紗耶香學術委員会輸血部門長、遠藤隆国臨協関信支部副支部長と私を含めた5名により候補者を選出しました。

令和3年9月4日学会当日のライブ配信を視聴して全ての演題を評価し、令和3年9月7日Web会議システムによる学会賞選考委員会により最終選考を行いました。

新人賞は「当センターにおける新生児聴カスクリーニング検査の変遷」を発表された、国立成育医療研究センターの濱田雄暉技師を選出しました。発表内容は関信支部内でも実施している施設が比較的少ない検査であり馴染みのない技師も多いなか、耳音響放射、自動聴性脳幹反応について分かりやすい発表でした。スライドの内容はもちろん、口頭発表態度も良かったとの意見も多くあがりました。

学会特別賞は「超音波診断装置による中手骨指節骨間関節測定の検者間信頼性の検討」を発表された、渋川医療センターの吉井聖恵技師を選出しました。技師間差や再現性が問題となる超音波検査において中手骨指節骨間関節の計測の比較検討が客観的になされておりました。対象者数が若干少ないことが残念ではありましたが、今後の検討に期待したいと思います。

學術奨励賞は「生理機能検査室におけるスキン-テア予防について他部門との取り組み」を発表された、千葉医療センターの田中亜由美技師を選出しました。発表・スライドともに高評価で他施設でも参考になる内容であったと思います。選考基準において学会特別賞に選出するべきか非常に迷いましたが、電極粘着面による皮膚トラブル軽減について、皮膚前処理剤・皮膚被膜剤・剥離剤使用の比較検討がなされており、学術的な要素もあったことより、今回は學術奨励賞に選出させていただきました。

受賞されました方々ならびに施設の皆様、おめでとうございます。